

資料2 「依頼文とWeb調査ページ」 特別支援学級（難聴）・通級指導教室（難聴）

送付1 アンケート調査への協力について（依頼）

令和元年7月12日

全国公立学校難聴・言語障害研究協議会会員の
小学校・中学校・義務教育学校 学校長 殿

筑波大学附属聴覚特別支援学校
学校長 鄭 仁豪

アンケート調査への協力について（依頼）

拝啓 時下ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。

この度、文部科学省の2019年度特別支援教育に関する実践研究充実事業（新学習指導要領に向けた実践研究）において、「新学習指導要領に示される聴覚障害の状態等に応じた言語活動の充実～人工内耳装用児に対する全国調査と実践研究に基づいて～」が採択され、全国各種教育機関における人工内耳装用幼児児童生徒の教育的対応の実態と課題に関する研究を行っております。本研究の遂行により、全国における人工内耳装用幼児児童生徒の言語活動の現状と課題について明らかにすることが期待されています。つきましては、全国の特別支援学校（聴覚障害）に対する本研究へのご協力につきましてご理解を賜りたく、ご依頼申し上げる次第です。

なお、研究の概要は添付資料の通りです。質問紙の取扱いにつきましては、筑波大学研究倫理に基づき、対象幼児児童生徒のプライバシー保護および倫理的配慮について遵守いたしますので、ご安心戴ければ幸いです。

本研究の趣旨をご理解の上協力いただきたく、何卒よろしくお願い申し上げます。

敬具

記

1. 実施責任者：筑波大学附属聴覚特別支援学校 学校長 鄭 仁豪

連絡先：E-mail: □□□□□@□□□□□□□□□□

2. 実施分担者：原島恒夫 筑波大学 教授 加藤靖佳 筑波大学 准教授
左藤敦子 筑波大学 准教授 澤 隆史 東京学芸大学 教授
庄司和史 信州大学 教授 長南浩人 筑波技術大学 教授
齋藤友介 大東文化大学 教授 茂木成友 東北福祉大学 講師
伊藤僚幸 筑波大学附属聴覚特別支援学校（以下筑波校） 副校長
橋本時浩 筑波校 主幹教諭 眞田進夫 筑波校 教務主任
石井清一 筑波校 副教務主任 桑原美和子 筑波校 幼稚部主事
鎌田ルリ子 筑波校 幼稚部教諭 吉野賢吾 筑波校 幼稚部教諭

3. 調査名と目的

調査名：新学習指導要領に示される聴覚障害の状態等に応じた言語活動の充実
～人工内耳装用児に対する全国調査に基づいて～

目的：特別支援学校（聴覚）および特別支援学級（聴覚）、通級指導教室（難聴）における
人工内耳装用幼児児童生徒の指導及び支援の実態と課題を明らかにする。

4. 調査の概要：教員による幼児児童生徒の言語活動の現状と課題についての質問紙への記入

5. 調査の方法：web サイトでの回答

送付2 アンケート調査への協力について（お願い）

令和元年 7 月 12 日

人工内耳装用の幼児児童生徒を指導されている先生方へ

筑波大学附属聴覚特別支援学校

学校長 鄭 仁豪

アンケート調査への協力について（お願い）

拝啓 時下ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。

この度、文部科学省の 2019 年度特別支援教育に関する実践研究充実事業（新学習指導要領に向けた実践研究）において、「新学習指導要領に示される聴覚障害の状態等に応じた言語活動の充実～人工内耳装用児に対する全国調査と実践研究に基づいて～」が採択され、全国各種教育機関における人工内耳装用幼児児童生徒の教育的対応の実態と課題に関する研究を実施しております。

本研究の遂行により、全国における人工内耳装用幼児児童生徒の言語活動の現状と課題について明らかにすることが期待されています。つきましては、全国の特別支援学校（聴覚障害）に対する本研究へのご協力につきましてご理解を賜りたく、ご依頼申し上げる次第です。

つきましては、全国の人工内耳装用の幼児児童生徒を実際に指導されている先生方に、本研究へのご理解とご協力を賜りたく、ご依頼申し上げる次第です。

なお、質問紙のご回答の取扱いにつきましては、筑波大学研究倫理に基づき、対象幼児児童生徒のプライバシー保護および倫理的配慮について遵守いたしますので、ご安心戴ければ幸いです。

本研究の趣旨にご理解とご協力をいただきたく、何卒よろしくお願い申し上げます。

敬具

記

1. 実施責任者：筑波大学附属聴覚特別支援学校 学校長 鄭 仁豪

2. 実施分担者：原島恒夫 筑波大学 教授 加藤靖佳 筑波大学 准教授
左藤敦子 筑波大学 准教授 澤 隆史 東京学芸大学 教授
庄司和史 信州大学 教授 長南浩人 筑波技術大学 教授
齋藤友介 大東文化大学 教授 茂木成友 東北福祉大学 講師
伊藤僚幸 筑波大学附属聴覚特別支援学校（以下筑波校） 副校長
橋本時浩 筑波校 主幹教諭 眞田進夫 筑波校 教務主任
石井清一 筑波校 副教務主任 桑原美和子 筑波校 幼稚部主事
鎌田ルリ子 筑波校 幼稚部教諭 吉野賢吾 筑波校 幼稚部教諭

3. 連絡 先：本研究全般に関する問い合わせ先

橋本時浩：E-mail: □□□□□@□□□□□□□□□□□□

送付3 アンケート調査（概要）

アンケート調査（概要）

1. 調査の題目

新学習指導要領に示される聴覚障害の状態等に応じた言語活動の充実
～人工内耳装用児に対する全国調査と実践研究に基づいて～

2. 調査の目的

全国の特別支援学校（聴覚障害）、難聴特別支援学級及び難聴通級指導教室に在籍、通級する幼児児童生徒の指導に関わる教員を対象に、人工内耳装用幼児児童生徒の指導上の課題や工夫点、聴覚活用、言語活動、コミュニケーション状況、学習状況や態度、言語能力、学校での行動の現状などについて、質問紙調査を行い、全国的教育現場における人工内耳装用幼児児童生徒の言語活動の現状と課題について、明らかにすることを目的としています。

3. 調査の方法

(1) 調査対象

- ・全国の特別支援学校（聴覚障害）の幼児児童生徒の指導に携わる教員
- ・全国の難聴特別支援学級の児童生徒の指導に携わる教員
- ・全国の難聴通級指導教室に通級する児童生徒の指導に携わる教員

(2) 協力機関

- ・全国聾学校校長会
- ・全国公立学校難聴・言語障害教育研究協議会

(3) 調査を依頼する学校

- ・全国の特別支援学校（聴覚障害） 107 校
- ・全国の難聴特別支援学級 全国の難聴通級指導教室 1267 校

(4) 調査時期

令和元年7月16日（火）～9月6日（金）

(5) 調査方法

- ・WEB ページへの自記式質問紙調査

(6) 調査項目

- 学校についての質問
在籍児童生徒数と人工内耳装用児童生徒数
- 回答される先生への質問
 - Ⅰ 先生ご自身について
 - Ⅱ ご担当の人工内耳装用児童生徒が在籍する学級について
 - Ⅲ 人工内耳装用児童生徒の指導について
- 人工内耳装用児童生徒の一人一人についての質問
 - Ⅳ 対象児童生徒について
 - Ⅴ 対象児童生徒の学校での学習と生活について

4. 調査結果の報告

- ・報告会の開催および報告書の回覧
- ・全国実態調査に関する報告会を令和2年2月頃、予定しています。報告会終了後、WEB上で、報告書が閲覧できるようにします。

送付 4 アンケート調査への回答方法

アンケート調査への回答方法

質問紙へのご回答は、先生方の自主的な回答を前提としています。回答をしない場合も、不利益を被ることはありません。本調査では、人工内耳装用の児童生徒に関する全国的なデータが得られ、その結果から現状と問題点が把握でき、今後の方向性が見いだされることを期待しています。本調査の趣旨にご理解とご賛同が得られ、多くの先生方から回答が寄せられることを願っております。なお、質問紙のご回答の取扱いにつきましては、筑波大学研究倫理に基づき、対象児童生徒のプライバシー保護および倫理的配慮について遵守いたします。

何卒、ご理解とご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

1. 質問紙はインターネットにあります。下記の URL より回答をお願いいたします。

[https:// □□□□□/□□□□/□□□□/](https://□□□□□/□□□□/□□□□/)



1. Web ページの構成

- ・学校名・教室名と幼児児童生徒数と人工内耳装用幼児児童生徒数をお伺いしています。人工内装児童生徒がいらっしゃらない場合でもこちらまではぜひご回答ください。人工内装児童生徒がいらっしゃらない場合は、ここで調査終了となります。
- ・同一学校で複数の先生にご回答いただける場合は、それぞれ別々に Web ページにアクセスいただき、ここまでは同一内容でご回答いただき、次にお進みください。
- ・次は、ご回答いただいた先生についてお伺いしています。担当される難聴児のうち人工内耳装用児童生徒数が 1 名以上の場合に、人数分の児童生徒についての質問が展開します。Ⅱ－1－【2】は、必ずご入力いただきますようお願いいたします。
- ・続いて、児童生徒についてお伺いしています。

2. 回答方法

- ・調査内容により、選択式と記述式の回答内容が混在します。
- ・調査内容は、先生方個々人の考えをお聞きするものです。学校としてのご意見を求めるものではありません。
- ・回答方法には、選択式と記述式があります。また選択式は、1 つの回答を求める単回答と、複数選択が可能な複数選択回答があります。
- ・記述式は、先生個人のお考えを伺うものです。選択式に比べて先生方にお手数をおかけしますが、宜しくお願いします。

3. 回収方法

- ・回答後、確認画面が表示されます。その後送信をお願いいたします。

4. 問い合わせ先：

- ・本調査の内容に関する問い合わせ先は、次の通りです。
石井清一：E-mail: □□□□□@□□□□□□□□□□

人工内耳装用幼児児童生徒の言語活動の現状と課題について

学校名・教室名を入力してください。

- 本調査で学校名・教室名を公表することはありません。
- 回答への問い合わせ先としてのみ活用させていただきます。

F1 学校名・教室名 《必須》

特別支援学級、通級指導教室および在籍幼児児童生徒数等について、教えてください。

- 令和元年5月1日現在で入力してください。

F2 設置している特別支援学級にチェックをつけてください（複数回答可） 《必須》

☐

☐

1

2

難聴特別支援学級

言語障害特別支援学級

F3 在籍している難聴児数を入力ください 《必須》

〔1〕

〔2〕

難聴特別支援学級

言語障害特別支援学級

名

名

F3-SQ そのうち人工内耳を装用している難聴児数を入力ください 《必須》

〔1〕

〔2〕

難聴特別支援学級

言語障害特別支援学級

名

名

F4 通級（自校・他校・巡回）による指導を受けている難聴児数を入力ください 《必須》

名

F4-SQ そのうち人工内耳を装用している難聴児数を入力ください 《必須》

名

以下の設問につきましては、F4-SQで1名以上をお答えの方のみ表示されます。それ以外の方は送信確認画面へお進みください

人工内耳幼児児童生徒調査用Webページ②

I 先生ご自身について

I-1 年齢《必須》

0 歳

I-2 教員歴《必須》

0 年

I-3 聴覚障害児に対する指導歴《必須》

【1】 聴覚障害児に対する指導歴	0	年
【2】 特別支援学校（聴覚障害）での指導歴	0	年
【3】 特別支援学校（聴覚障害以外の障害種）での指導歴	0	年
【4】 難聴学級ないし通級指導教室での指導歴	0	年
【5】 通常学級での指導歴	0	年

I-4 人工内耳装用児の指導にあたって学習したい研修内容を教えてください。（例えば、人工内耳に関する基礎的研修、人工内耳関連機関による説明会等）

II ご担当の人工内耳装用幼児児童生徒が在籍する学級について

II-1 ご担当学級の《必須》

【1】 幼児児童生徒総数	0	人
【2】 うち、人工内耳装用幼児児童生徒数	0	人

II-2 人工内耳装用幼児児童生徒に関する医療機関との連携の有無《必須》

- ☐ 1. 有り
☒ 2. 無し

【II-2で「1.有り」と回答の方】 にお伺いします

II-2-SQ 「有り」の場合、連携の内容を教えてください。

III 人工内耳装用幼児児童生徒の指導について

III-1 補聴器装用幼児児童生徒と比べて、指導上、特に課題として感じている点を教えてください。

III-2 補聴器装用幼児児童生徒と比べて、指導上、工夫している点を教えてください。

III-3 補聴器装用幼児児童生徒と比べて、指導しやすい点を教えてください。

IV以降は人工内耳装用幼児児童生徒の一人一人についての質問です。

IV A児について

《A
児》IV
-1

学校（園）・学年

【1】 学校（園）

【2】 学年

年生

《A
児》IV
-1-SQ

指導形態

- ☐ 1. 特別支援学級
- ☐ 2. 通級による指導
- ☐ 3. 発達支援センター
- ☐ 4. その他

《A
児》IV
-2

年齢

歳

《A
児》IV
-3

聴覚障害診断時の年齢

【1】 歳

歳

【2】 月

ヶ月

《A
児》IV
-4

人工内耳の装用状態

- ☐ 1. 片耳
- ☐ 2. 両耳

【《A児》IV-4で「1.片耳」と回答の方】 にお伺いします

《A
児》IV
-4①

片耳の場合、もう一方の耳への補聴器装用の有無

- ☐ 1. 有り
- ☐ 2. 無し

《A
児》IV
-4②

学校での補聴援助システム使用の有無

- ☐ 1. 有り
- ☐ 2. 無し

《A
児》IV
-5

人工内耳装用開始時期

【1】 歳

歳

【2】 月

ヶ月

《A
児》IV
-6

人工内耳手術前の聴力

【1】 右耳

dBHL

【2】 左耳

dBHL

人工内耳幼児児童生徒調査用Webページ④

《A 児》Ⅳ -7

現在の平均聴力レベル

- | | | |
|-----------------------|--|------|
| 【1】 良耳（裸耳）の平均聴力レベル | | dBHL |
| 【2】 人工内耳の装用下での平均聴力レベル | | dBHL |

《A 児》Ⅳ -8

重複障害の有無

- ☐ 1. 有り
- ☐ 2. 無し

【《A児》Ⅳ-8で「1.有り」と回答の方】 にお伺いします

《A 児》Ⅳ -8-SQ

「有り」の場合の聴覚障害以外の障害種（複数回答可）

- ☐ 1. 視覚障害
- ☐ 2. 知的障害
- ☐ 3. 肢体不自由
- ☐ 4. 病弱・身体虚弱
- ☐ 5. その他

《A 児》Ⅳ -9

普段使用するコミュニケーションモードを教えてください。（複数回答可）

- ☐ 1. 音声
- ☐ 2. 手話
- ☐ 3. 指文字
- ☐ 4. キューサイン
- ☐ 5. 読話
- ☐ 6. 筆談
- ☐ 7. その他

《A 児》Ⅳ -10

上記Ⅳ-9のコミュニケーションモードの中で、学校での学習時に用いるものを、多い順に2つ、その番号で教えてください。

※それぞれ
縦方向に
お答え下さい
↓

	【1】 1番目	【2】 2番目
	↓	↓
1 音声	☐	☐
2 手話	☐	☐
3 指文字	☐	☐
4 キューサイン	☐	☐
5 読話	☐	☐
6 筆談	☐	☐
7 その他	☐	☐

《A 児》Ⅳ -11

家族構成等について

※それぞれ
横方向に
お答え下さい
→

	1	2
	有り	無し
【1】 きょうだい	→ ☐	☐
【2】 近親者の聴覚障害者	→ ☐	☐

人工内耳幼児児童生徒調査用Webページ⑤

《A 児》Ⅳ -12	学校歴について（複数回答可）
<乳児期>	
☐ 1. 特別支援学校（聴覚障害）	
☐ 2. 児童発達支援センター（難聴幼児通園施設）	
☐ 3. その他	
<幼児期>	
☐ 4. 特別支援学校（聴覚障害）幼稚園	
☐ 5. 幼稚園	
☐ 6. 保育所	
☐ 7. 児童発達支援センター（難聴幼児通園施設）	
☐ 8. その他	
<児童期>	
☐ 9. 特別支援学校（聴覚障害）小学部	
☐ 10. 小学校（通常学級）	
☐ 11. 小学校（特別支援学級）	
☐ 12. その他	
<少年期>	
☐ 13. 特別支援学校（聴覚障害）中学部	
☐ 14. 中学校（通常学級）	
☐ 15. 中学校（特別支援学級）	
☐ 16. その他	
<青年期>	
☐ 17. 特別支援学校（聴覚障害）高等部	
☐ 18. 高等学校	
☐ 19. その他	
《A 児》Ⅳ -13	今後の進路の希望について教えてください。（複数回答可）
<小学校>	
☐ 1. 特別支援学校（聴覚障害）小学部	
☐ 2. 小学校（通常学級）	
☐ 3. 小学校（特別支援学級）	
☐ 4. その他	
<中学校>	
☐ 5. 特別支援学校（聴覚障害）中学部	
☐ 6. 中学校（通常学級）	
☐ 7. 中学校（特別支援学級）	
☐ 8. その他	
<高等学校>	
☐ 9. 特別支援学校（聴覚障害）高等部	
☐ 10. 高等学校	
☐ 11. その他	
<大学等>	
☐ 12. 特別支援学校（聴覚障害）高等部専攻科	
☐ 13. 高等専門学校	
☐ 14. 筑波技術大学	
☐ 15. 一般大学	
☐ 16. その他	
<就職・その他>	
☐ 17. 就職	
☐ 18. 職業能力開発校	
☐ 19. その他	

《A児》Ⅳ-14：聴覚活用状態について

《A児》
Ⅳ
-14 (1) 音への気づきを教えてください。

☐	☐	☐	☐	☐
5 極めて良い	4 良い	3 どちらともいえない	2 あまり良くない	1 良くない

《A児》
Ⅳ
-14 (2) 言語音の聞き取りを教えてください。

☐	☐	☐	☐	☐
5 極めて良い	4 良い	3 どちらともいえない	2 あまり良くない	1 良くない

《A児》
Ⅳ
-14 (3) 教師や友達の話に集中して耳を傾けるときの様子を教えてください。

☐	☐	☐	☐	☐
5 よくできている	4 できている	3 どちらともいえない	2 あまりできていない	1 できていない

《A児》
Ⅳ
-14 (4) この子の聴覚活用に関する指導の現状と課題について教えてください。

《A児》Ⅳ-15：言語活動（読み書き）について
(幼児に関しては、口頭による言語活動に置き換えて回答してください。)

《A児》
Ⅳ
-15 (1) 同年齢の健聴の幼児児童生徒の平均値に比べて、この子の文法力の程度を教えてください。

☐	☐	☐	☐	☐
5 高い	4 やや高い	3 同じくらい	2 やや低い	1 低い

《A児》
Ⅳ
-15 (2) 同年齢の健聴の幼児児童生徒の平均値に比べて、この子の文章理解力の程度を教えてください。

☐	☐	☐	☐	☐
5 高い	4 やや高い	3 同じくらい	2 やや低い	1 低い

《A児》
Ⅳ
-15 (3) 同年齢の健聴の幼児児童生徒の平均値に比べて、この子のメモなどの文を書く力の程度を教えてください。

☐	☐	☐	☐	☐
5 高い	4 やや高い	3 同じくらい	2 やや低い	1 低い

《A児》
Ⅳ
-15 (4) 同年齢の健聴の幼児児童生徒の平均値に比べて、この子の文章構成力を含む作文力の程度を教えてください。

☐	☐	☐	☐	☐
5 高い	4 やや高い	3 同じくらい	2 やや低い	1 低い

《A児》
Ⅳ
-15 (5) この子の言語活動に関する指導の現状と課題について教えてください。

V A児の学校での学習と生活について

《A児》V-1 学業成績について（幼児は該当しない）

《A児》
V
-1 (1)

同年齢の健聴の児童生徒の平均値に比べて、この子の現在の学業成績の程度を教えてください。

☐	☐	☐	☐	☐
5	4	3	2	1
高い	少し高い	同じくらい	少し低い	低い

《A児》
V
-1 (2)

この子の潜在的な学習能力や知的能力に比べて、現在の学業成績の程度を教えてください。

☐	☐	☐	☐	☐
5	4	3	2	1
同じくらい	やや低い	低い	かなり低い	比較できないほど低い

《A児》
V
-1 (3)

同年齢の健聴の児童生徒の平均値に比べて、この子の読書力の程度を教えてください。

☐	☐	☐	☐	☐
5	4	3	2	1
高い	少し高い	同じくらい	少し低い	低い

【《A児》V-1 (1)～(3)の合計点が9点以下の方】にお伺いします

《A児》
V
-1 (4)

上記の合計点が9点以下の場合、この子の学習指導の現状と課題について教えてください。

《A児》V-2 学習態度について

《A児》
V
-2 (1)

同年齢の平均的な健聴の幼児児童生徒に比べて、この子の注意散漫の程度を教えてください。

☐	☐	☐	☐	☐
5	4	3	2	1
ほとんどない	少しある	同じくらい	少し多い	多い

《A児》
V
-2 (2)

同年齢の平均的な健聴の幼児児童生徒に比べて、この子の注意持続の時間の程度を教えてください。

☐	☐	☐	☐	☐
5	4	3	2	1
長い	少し長い	同じくらい	少し短い	短い

《A児》
V
-2 (3)

口頭による指示に対して、戸惑いを示したり躊躇したりしますか。

☐	☐	☐	☐	☐
5	4	3	2	1
ない	ほとんどない	時々ある（他の子と同じくらい）	やや多い	多い

【《A児》V-2 (1)～(3)の合計点が8点以下の方】にお伺いします

《A児》
V
-2 (4)

上記の合計点が8点以下の場合、この子の学習態度に対する指導の現状と課題について教えてください。

《A児》V-3 コミュニケーション能力について

《A児》
V
-3 (1) 同年齢の平均的な健聴の幼児児童生徒に比べて、この子のコミュニケーション能力の程度を教えてください。

☐	☐	☐	☐	☐
5 高い	4 やや高い	3 同じくらい	2 やや低い	1 低い

《A児》
V
-3 (2) 同年齢の平均的な健聴の幼児児童生徒に比べて、この子の語彙力の程度を教えてください。

☐	☐	☐	☐	☐
5 高い	4 やや高い	3 同じくらい	2 やや低い	1 低い

《A児》
V
-3 (3) 同年齢の平均的な健聴の幼児児童生徒に比べて、この子の出来事（例えば、昨日の家の様子等）を話す能力の程度を教えてください。

☐	☐	☐	☐	☐
5 高い	4 やや高い	3 同じくらい	2 やや低い	1 低い

【《A児》V-3 (1)～(3)の合計点が10点以下の方】にお伺いします

《A児》
V
-3 (4) 上記の合計点が10点以下の場合、この子のコミュニケーションにおける指導の現状と課題について教えてください。

《A児》V-4 学校（園）生活について

《A児》
V
-4 (1) 教師の質問やクラスメートとの話し合いに対する、この子の参加状況の程度を教えてください。

☐	☐	☐	☐	☐
5 多い	4 やや多い	3 他の子と同じくらい	2 やや少ない	1 少ない

《A児》
V
-4 (2) この子の持ち物や宿題などの持参あるいは提出の状況について教えてください。

☐	☐	☐	☐	☐
5 常に持参・提出	4 ほとんど持参・提出	3 時々忘れる（他の子と同じくらい）	2 ほとんど忘れる	1 常に忘れる

《A児》
V
-4 (3) 教師の指示の後、この子は課題を遂行することに困難を示すことはありますか。

☐	☐	☐	☐	☐
5 ない	4 ほとんどない	3 時々ある（他の子と同じくらい）	2 やや多い	1 多い

【《A児》V-4 (1)～(3)の合計点が8点以下の方】にお伺いします

《A児》
V
-4 (4) 上記の合計点が8点以下の場合、この子の生活指導の現状と課題について教えてください。

人工内耳幼児児童生徒調査用Webページ⑨

《A児》 V-5 学校（園）での行動について

《A児》
V
-5 (1)

同年齢の平均的な健聴の幼児児童生徒に比べて、この子は、学校で場にそぐわない行動あるいは不適切な行動をとることはありますか。

☐ ☐ ☐ ☐ ☐

5 ない	4 ほとんどない	3 時々ある（他の子と同じくらい）	2 やや多い	1 多い
---------	-------------	----------------------	-----------	---------

《A児》
V
-5 (2)

同年齢の平均的な健聴の幼児児童生徒に比べて、この子は、早い段階でストレスを感じたり、情緒的に落ち着かなくなったりすることがありますか。

☐ ☐ ☐ ☐ ☐

5 ない	4 ほとんどない	3 時々ある（他の子と同じくらい）	2 やや多い	1 多い
---------	-------------	----------------------	-----------	---------

《A児》
V
-5 (3)

この子は、他の子どもたちと良好な関係を維持できていますか。

☐ ☐ ☐ ☐ ☐

5 非常に良好である	4 良好である	3 ふつう	2 あまり良好ではない	1 良好ではない
---------------	------------	----------	----------------	-------------

【《A児》 V-5 (1) ～ (3) の合計点が9点以下の方】 にお伺いします

《A児》
V
-5 (4)

上記の合計点が9点以下の場合、この子の行動に対する指導の現状と課題について教えてください。

送信確認画面へ

以下、F-SQで回答した人工内耳を装用している難聴児数に応じて幼児児童生徒について回答するページが展開する。